

## 今福公民館（放課後子ども活動支援・ふるさと郷育）

<p>【活動名】 【活動の主体・エリア】</p>	<p>今福児童クラブ×今福小学校地区3公民館連携夏休み事業 『熊の出前講座』 ～今福地区児童クラブ・金城中校区～</p>
<p>【めあて・目標】</p>	<p>児童クラブの夏休みの居場所づくりと地域住民との交流事業 ～熊出没が多発の中、夏休みの過ごし方を考える～</p>
<p>【子どもたちに身に付けさせたい力】</p>	<p>郷土愛・自尊心</p>
<p>【日時】 令和2年8月20日（木）13：30～15：40 （3部構成） 【場所】 今福公民館 多目的ホール 【参加人数】 今福小学校児童クラブ17名、指導員4名、県職員5名、市職員3名、地域住民3名 公民館スタッフ6名、連携主事1名</p> <p>県の専門員による『熊の出前講座』、金城町の実話を基にした絵本読み聞かせ、スカットボールの3部構成で行った。</p> <p>夏休み前に行う『今福小区ネットワーク会議』（今福小職員、児童クラブ職員、今福小区3公民館、民生委員、社協が集う場）で、熊の出没が頻繁で児童の夏休みの過ごし方が懸念される話題があり、3公民館で『熊の出前講座』を企画することとなった。</p> <p>事前に県職員、市職員、3公民館職員で児童に伝えたい熊の生態や、熊に出逢った時の自身の守り方、動物保護愛等を話し合った。児童が体験できる寸劇を交えたり、熊の剥製や毛皮、頭蓋骨等に実際に触れながらの質疑応答をしたり、児童が理解を深める工夫がされた。学びを提供する側の意欲も話し合いで高まった。</p> <p>また、ボランティアによる『かんたくんのいえ』絵本の読み聞かせを行った。その後、絵本の主人公の熊をお世話されていた地域住民のお話を聞いた。児童にとっては動物愛護や地域の環境を考えさせられる場面となり質問が多くみられた。地域住民にとっては児童のために実体験を話すことで自己有用感が得られた感想が聞けた。また寸劇に使う大道具等も当日来られなかった地域住民が準備し、スカットボールにも高齢者クラブの支援があり、多様な団体を巻き込むことで地域が一体となった共育を実現できた。行政に関わる事で広報の範囲も広まった。</p> <p>今後の課題は、児童クラブの職員も企画段階から関わることでより子どもの実態に寄り添う企画ができるようになるのではという反省点を活かし、他事業等でも連携を密にしていきたい。またコロナ禍で高齢者の参加を中止としたため、工夫しながら参加を促したい。</p>	
<p>講師ボランティア 関わった団体・ 組織・機関等</p>	<p>児童クラブ17名、職員4名、西部農林振興センター3名、浜田市金城支所産業建設課2名、今福地区まちづくり推進委員会1名、福寿会1名、舞笑会2名、今福小図書司書1名、地域住民1名、今福小地区3公民館6名、連携主事1名</p>
<p>振り返り （良かったこと、 反省点 など）</p>	<p>打合せを何度か重ね、県との打ち合わせ会では児童クラブの散歩コースに熊の出没ポイントがある事や、児童に何を理解して欲しいか、リラックスした雰囲気での会を進めたいなど思いやねらいを共有できた。</p> <p>次回からは児童クラブの職員にも企画段階から一緒に参画していただけるよう働きかけたい。また、児童と一緒に地域住民にも講習を受けて頂けるような環境にしてより一層、地域一体となった共育を推進していきたい。</p>



参加体験型の講習の様子



熊の毛皮に横たわる職員の様子